

## 第 6 期 雄武町総合計画 前期実施計画書兼事務事業評価調査

様式11

No. 12010010

政策目標	3 【達成感から学ぶ教育のまち・雄武】～教育・文化の振興と拠点づくり～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	11 学校教育の充実	事業優先度	A	
単位施策	1 小中学校の教育内容の充実	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	言語治療児童援助事業	見直し年度		
事業期間	平成30年度～平成34年度	担当課	12 教育委員会教育振興課	
事業主体	雄武町	関係課	5 保健福祉課	
事業指標	ことばの発達障害と診断された児童の早期治療による解消	ハード/ソフト事業区分	2 ソフト事業	
事業目標	障害者数 0人	関係例規・法令名	無	
町民参加	無	関係個別計画名	無	
町民協働				

全体計画 事業内容		平成 30 年度 事業内容	平成 31 年度 事業内容	平成 32 年度 事業内容	平成 33 年度 事業内容	平成 34 年度 事業内容
計画 内 容	新入学児童における、ことばの発達障害の早期治療に係る治療の場の確保と通級費の負担軽減	通級費助成 広域市町村負担	通級費助成 広域市町村負担	通級費助成 広域市町村負担	通級費助成 広域市町村負担	通級費助成 広域市町村負担
	通級に係る交通費の助成 広域市町村による「ことばの教室」運営費の負担					
計画 事業 費	事業費(千円)	1,300	260	260	260	260
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債 その他	0				
一般財源	1,300	260	260	260	260	
実績 事業 費	事業費(千円)	210	210	0	0	0
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債 その他	0				
一般財源	210					
関連 事項	特定財源の名称		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
	【評価・実績】		ことばの発達障害児の通級に係る交通費の助成 ・小学校児童 4人 広域市町村による「ことばの教室」運営費の負担 ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
	第5期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値 年度達成率	0人 81%	0人 0%	0人 0%	0人 0%
	後期計画への継続 (継続有り)	全体達成率 備考欄	16%	16%	16%	16%

事業名 言語治療児童援助事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	中村 文隆
	評価者 作成者 職氏名	教育総務係長	作田 竜人

様式1  
平成30年度実施  
平成31年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	児童・保護者等	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	通級を要する児童の把握及び交通費の助成								
【抱える課題やニーズは】	ことばの発達障がい等は、早期治療が有効であるため、治療を要する児童、保護者に対して広域で紋別市に設置している言語治療学級への通級を促進し、通級に要する経済負担の支援を行うとともに、言語治療学級を運営するための負担も行う必要がある。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	ことばの発達障がいをもつ児童の早期治療及び言語治療学級の運営の維持を図る。	① 通級を要する児童把握	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成30年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>100%</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>100%</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>100.0%</td></tr> </table>	目標年度	平成30年度	目標値	100%	実績値	100%	達成度	100.0%
目標年度	平成30年度										
目標値	100%										
実績値	100%										
達成度	100.0%										
【その結果、どのような成果を実現したか】 ※成果=目的	正しい発音、表現力、理解力を高め、児童の健全な育成に繋がる。	② 通級を要する児童の交通費助成	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成30年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>4人</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>4人</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>100.0%</td></tr> </table>	目標年度	平成30年度	目標値	4人	実績値	4人	達成度	100.0%
目標年度	平成30年度										
目標値	4人										
実績値	4人										
達成度	100.0%										
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	通級に要する交通費の助成	西紋別地区言語治療学級からの通級証明に基づく、通級児童の交通費(バス往復料金×通級月数)を支給しています。									
	西紋別地区言語治療学級の運営費の負担	西紋別地区市町村において運営費を負担しています。									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	保護者負担の軽減及び個々の児童がより良い学校生活を送るための経済支援として、通級費助成は必要であり、専門治療機関の設置を維持するために運営費の負担も必要であると判断します。
必要/概ね必要/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	言語治療学級の設置を維持することができ、ことばの発達障がいをもつ児童の早期発見、治療を行うことができていると判断します。
有効/概ね有効/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	言語治療については、西紋5市町村の広域実施により、効率的な事業実施が行われていると判断します。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	言葉の発達障がいをもつ児童、保護者に対し、言語治療の機会が等しく確保されているので公平性が保たれていると判断します。
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当等  
 B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要等  
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要等  
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
ことばの発達障がいをもつ児童の保護者に対する経済支援を行うとともに、早期発見、治療等により、児童の学校生活の充実に向けて、計画どおり事業が進んでいます。		

今後の展開方向  
(Action)

継続/現状維持	
障がいの程度は児童により異なることから、専門職員のある言語治療学級を維持するための支援、通級児童の保護者に対する経済支援等、今後も計画的に事業を進めることが適当であります。	

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止

## 第 6 期 雄武町総合計画 前期実施計画書兼事務事業評価調書

様式11

No. 12010020

政策目標	3 【達成感から学ぶ教育のまち・雄武】～教育・文化の振興と拠点づくり～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	11 学校教育の充実	事業優先度	A	
単位施策	1 小中学校の教育内容の充実	政策事務分類	1 単独自治事務(例規)	
事業名	語学指導を行う外国青年招致事業	見直し年度		
事業期間	平成30年度～平成34年度	担当課	12 教育委員会教育振興課	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	配置人数	ハード/ソフト事業区分	#N/A	
事業目標	1名	関係例規・法令名	2 ソフト事業	
町民参加	無	関係個別計画名	有 語学指導等を行う外国青年就業規則	
町民協働			無	

全体計画 事業内容		平成 30 年度 事業内容	平成 31 年度 事業内容	平成 32 年度 事業内容	平成 33 年度 事業内容	平成 34 年度 事業内容
計画 内 容	外国語の充実に向けた語学指導を行う 外国青年招致(人件費・車両維持費等) 新学習指導要領対応(外国語教科化) 1名増員 (小学校 平成32年度全面実施) (中学校 平成33年度全面実施)	外国青年招致(2年目)	外国青年招致(3年目) 外国青年招致(初年度) 車両購入	外国青年招致(4年目) 外国青年招致(2年目)	外国青年招致(5年目) 外国青年招致(3年目)	外国青年招致(初年度) 外国青年招致(4年目)
	事業費(千円)	41,475	5,495	9,175	8,808	9,066
計画 事業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	96	11	18	22	23
一般財源	41,379	5,484	9,157	8,786	9,043	
事業費(千円)	4,779	4,779	0	0	0	
実績 事業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	10	10			
一般財源	4,769	4,769				
関連 事項	特定財源の名称		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
	雇用保険納付金					
		【評価・実績】	外国語教育充実に向けた語学 指導を行う外国青年招致			
			※事務事業評価結果 A-継続/拡充	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
	第5期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	1人	2人	2人	2人
	後期計画への継続 (継続有り)	年度達成率	87%	0%	0%	0%
	全体達成率	12%	12%	12%	12%	
	備考欄					

事業名	語学指導を行う外国青年招致事業	評価者	管理職 職氏名	教育振興課長	中村 文隆
		評価者	作成者 職氏名	教育総務係長	作田 竜人

様式1  
平成30年度実施  
平成31年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	児童・生徒	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	招致人数								
【抱える課題やニーズは】	英語を話す外国人に接する機会が少ないため、英語教育への関心が低く、児童生徒の国際コミュニケーション力が不足している。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	外国人青年を誘致することにより、外国語教育の充実を図る。	① 招致人数	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成30年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>1人</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>1人</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>100.0%</td></tr> </table>	目標年度	平成30年度	目標値	1人	実績値	1人	達成度	100.0%
目標年度	平成30年度										
目標値	1人										
実績値	1人										
達成度	100.0%										
【その結果、どのような成果を実現したか】 ※成果=目的	児童・生徒が外国語を身近に感じることによって、国際感覚に富んだ人材を育成する。	②	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成30年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>#DIV/0!%</td></tr> </table>	目標年度	平成30年度	目標値	〇〇	実績値	〇〇	達成度	#DIV/0!%
目標年度	平成30年度										
目標値	〇〇										
実績値	〇〇										
達成度	#DIV/0!%										
【内容(どのような手段で何をを行ったか)】	JETプログラムによる外国語指導助手(ALT)の招致	北海道知事政策部知事室国際課、自治体国際化協会との連携により外国語指導助手を1名招致しています。									
	小中学校・高等学校等における英語授業の実施	年度当初に各学校からの要望に基づき、年間の派遣予定を計画し、中学校・高等学校での英語授業(TT)や小学校での総合的な学習の中での指導を実施しています。また、保育所においても入所児に対し、英語に触れる環境づくりを整備しています。									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	児童、生徒の英語及び外国に対する関心も高く、平成23年に改訂された学習指導要領における小学校高学年からの外国語活動の必修化に対応しており、英語に触れる環境づくりの一環としても極めて必要性が高いものであると判断します。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	小中高にALTを派遣することにより、児童、生徒が身近に本場の英語を肌で感じることができるとともに、英語に対する関心が深まっていると判断します。
有効/概ね有効/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	JETプログラムを活用し、適材な外国語指導助手を招致することができていると判断します。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	地域の児童、生徒を対象に英語教育の機会均等が図られているため、公平性が保たれていると判断します。
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価(A~D)

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等  
 B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等  
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等  
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
<b>A</b>		
各学校担当教員と指導案の確認や授業における役割などの打ち合わせを定期的に行うことで、効果的な授業が展開されており、計画通り事業が進んでいます。		

今後の展開方向  
(Action)

継続/拡充
児童、生徒の英語及び外国に対する関心も確実に高まっており、新学習指導要領に対応した事業展開を図るべく、次年度から1名増員を計画しております。

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止